



不換紙幣ノ理論  
通貨論第十七編  
アオカ氏著

大藏省  
翻譯課



114  
A 1422  
6



十七編

不換紙幣ノ理論

鬼頭悳二郎譯

大正十一年四月

凡ソ通貨ノ主義ハ余輩カ是迄ニ開陳シタル所ノ如クニ  
シテ前二編ニハ不換紙幣ノ經歷ヲ逐一辨論シタルニ依  
リ今本編ヲ以テ下文ノ決論ヲ陳白スルハ蓋シ理ノ當サ  
ニ然ルヘキヲ明証スルニ似タリ請フ是レヨリ逐條決論  
ニ説及サン

第一

凡ソ只約束上而已ニ止マリテ毫モ真價ナキ紙幣ト雖モ  
如何ナル社會ニ論ナク其社會ニ於テ交換一切ノ媒介ト  
ナルヲアルモノトス抑モ其斯ノ如クナル所以ノ者ハ他  
ナシ凡ソ販賣スヘキ品物ヲ所有セル時ニ在ニ異議

ナク之ヲ受取レハナリ是レ他ナシ其持主ハ一旦此紙  
ヲ受取リタレハトテモ又然ルヘキ時節ノ到来スルヲ  
テ之ヲ他人ニ容易ニ譲渡シ得ヘキヲ其心中ニ確信ス  
ルニ因テナリ斯ノ如ク衆人異議ナク紙幣ヲ授受シ止  
マサルヨリ其授受ノ事一般ニ行ハレ且ツ其授受元分申  
分ナキ程ニ至ルヲ以テ一時ハ紙幣ノ授受ヲハ金銀貨ノ  
授受ト區分シ難キ程ノ勢ニ至ルヲモナキニシモアラス  
トス

第二

凡ソ生産人タル者彼我ノ差別ナク何レモ一樣ナル性質  
ニシテ容易ク分別シ易キ一種ノ品物ヲ欲スルハ世ノ中  
一般皆然ラサルハナキノ実事ヲハ余輩ハ既ニ前編ニ舉  
ゲテ以テ凡ソ交換上ニ於テハ一般ノ目安ナルモノ、勿

ルヘカラザルヲヲ説尽クセリ

凡ソ各商皆其所賣ノ品物ヲ販賣シテ以テ其代價トシテ  
成ルヘク文ヶ多ク右ノ一品物ヲ手ニ入レシトニ致々盡  
カスルナリ又各生産者皆成ルベク文ヶ些少ノ勞役ヲ要  
シタル産物ヲ市場ニ携帶シ之レヲ交換シ其代價トシテ  
右ノ一品物若干額ヲ手ニ入レント欲スルナリ凡ソ此等  
ハ渾テ一切ノ諸品物ヲハ夫レニ應當スル費用ノ多寡ニ  
從テ以テ價格ノ標準ニ應シ高低ヲ立ルヲ茲テ初メテ右  
ノ目的ニ達セサルヲ得ス其高低ノ程度ハ則チ右ノ一品  
物ヲ以テ磅ト云ヒ弗ト云フモノナリ然ルニ余輩カ既  
前文ニ開陳シタル如ク只約束上而已ニ止マル真價ナキ  
通貨ス、是レ此ヲ舉行ハルノ用ニ適當スルモノナリト  
ス

第三

凡ソ斯ノ真價ナキ通貨 多氏人々ノ衆望ニ叶ヒ異議ナ  
ク世間ニ授受セラルル、間ハ其通貨ハ久シキニ涉ル諸仕  
拂上ノ本位タル役目ヲ任遂ルモノトス尤モ其之ヲ任遂  
ルハ其流通高ノ制定如何ニ由リテ善悪ノ別アルモノト  
ス然ルニ金銀ノ正貨ニ至リテハ時ニ由リテハ右ノ本位  
タル貨幣ノ要務ヲ任遂ルニ不充ナルヲアル昔ハ己ニ  
余輩カ前文ニ開陳シ置タル所ナリ金銀ノ正貨ニシテ往  
々其本位タル要務ヲ遂クルニ当リ却テ不充ナル所ナ  
ルカ故ニ不換紙幣乃チ想像貨幣ノ主唱論者ハ彼令レ其  
不換紙幣ノ下落スルヲアルモ亦金銀貨ニ打歩ヲ生スル  
ヲアルモソハ斯ル不換紙幣カ本位タルノ本分ヲ任遂ク  
ルヲ誤リタルノ証據トナサス飽マテ其然ラザル旨ヲ

主張シテ止マザルナリ  
夫レ事ノ抑モ爰ニ至ルハ是レ寧ロ金銀貨ハ凡ソ久シキ  
ニ涉ル諸仕拂上ノ本位タル本分ヲ任遂ルヲ稍誤マル  
ノ証據ナリト云フモ蓋シ不當ナラザルベシ  
蓋シ千八百十年ヨリ十九年ニ涉リテ異論ヲ唱ヘタル地  
金反對論者ノ語ヲ借リテ云ハ、ソハ紙幣ノ下落シタル  
ニ非ス金銀兩貨ノ騰貴シタルナリト云フモ不可ナカル  
ヘシ抑モ久遠ニ涉ル諸仕拂上ノ本位ノ主眼トスル  
凡ソ約定ノ期満チ辨償ノ時ニ臨ミテ其前キニ的  
結セシ節ニ貸借主双方ノ志ヤシ所ノ同購買力  
ヤラル、要スルニ在ルカ故ニ蓋シ紙幣ハ彼金銀  
貨ガ久遠ニ保持セルモ世々代々一層不同ナリ管  
久遠ニ保持スベキ様ニ  
協定統治

紙幣ヤニ斯ノ如キ

然ルニ凡...

幣トシ使用スルニ

金銀貨ノ缺點爰ニ在シ

ニ本書第百五十七頁イテヨリ第百五十九頁イテマテ論辨セシ所ノモノヲ今左ニ引用シテ其理ヲ

セシ

凡ソ金銀貨ヲハ貨幣トシテ使用スルニ当リ其金貨  
ニ一ノ缺點アリトス是レ此缺點ハ凡ソ金銀貨ヲハ久  
遠ニ渉ル諸仕拂上ノ本位トナスノ要務ニ於テ而已相  
生スルカ如シ夫レ金銀貨ハ交換ノ媒介物トナスモ又  
物價ノ目安トナスモ太古ヨリ人間一般ノ許諾ヲ經テ  
其金銀貨ニ付与セシ職分ヲハ充分ニ任遂ケタルナリ  
故ニ何物何品ヲ持来ルコトアルモ貨幣トシテ使用スル  
ニハ金銀ノ兩種程貨幣タル適當ノ性質ヲ具備セルモ

ノハ天下ニ之レナキナリ

猶ホ夫レ而己ナラス金銀ノ兩貨ハ仮令ヒ之ヲ久遠ニ  
渉ル諸仕拂上ノ本位トナストモ商業上貸借ノ期限餘  
リ又遠ニ渉ラス通常期限以内ナレハ一定不動ナル凡  
ソ如何ナル至要ノ商品タリトモ其一定不動ナル金  
銀兩貨ノ右ニ出ル者之レナシ抑モ金銀ノ兩貨ニ限り  
斯ノ如ク一定不動ナル所以ノモノハ他ナシ金銀ノ兩  
貨ハ其日常使用セラル、ノ際消耗スルコト徐々タ  
ナリ且ツ之ヲ貯蓄スルノ際決シテ腐朽ノ患ナ  
ナリ凡ソ金銀ノ兩貨ハ右ニ陳フル所ノ如キ  
ニ依リ年々徐々ト高低アル而已ニシテ容  
ナキモノナリ然レ  
如キ穀類、如キ石炭  
其他 生日用諸品  
ハ月々ニ更

ス而 非常ノ乱高  
夫レ然リ然リト雖  
スルモノ 喩ヘハ 田地家作ノ 貸借ナリシロク  
ハ 商會ヘノ 貸付ナリ以上ノ 如キ久遠ノ 約定  
ハ 後日金銀價格ノ 變動ニ 因リ 貸主カ 借主カ 何  
ハ 損失ヲ 被ムルヲ アルヲ 常トス 且ツ 余輩 執今ノ 七  
開祭ノ 景状ヲ 顧察スレハ 此事必ラス 有リ 勝ノ トト 明  
言セザル ベカラス  
頃ハ 千五百七十年ヨリ 千六百四十年ニ 至ル 迄 米兩銀  
山ヨリ 銀ノ 産出スルヲ 巨額ナリシニ 由リテ 金銀價ニ  
非常ノ 變動ヲ 生セシヲ アリシガ 其レヲ ハ 措テ 問ハス  
シテ「プロフエツル、ゼボンス」氏ハ 其豫算ヲ 立テ、曰ク  
千七百八十九年ヨリ 千八百四十九年ニ 至ル 迄ニ 金價

ノ 下落スルヲ 四割六分ナリ 然ルニ 千八百九年ヨリ 千  
八百四十九年ニ 至ル 迄ニ 其價ノ 騰貴スルヲ 拾四割五  
分ナリシ 然ルニ 千八百四十九年ヨリ 千八百七十四年  
ニ 至ル 迄ニ 其價復タ 下落スルヲ 少ク 貳割ニ 至リ  
ト 以上「ゼボンス」氏ノ 豫算スル所 委詳ノ 件ハ 不充ニ 不  
明了ナルニ 依リテ 今 余輩ハ 此 計算ヲ 粗雜ノモノト 認  
ルモ 右ノ 年月間ニ 斯ノ 如キ 非常ノ 乱高下アリシノ 實  
ハ 爭フヘカテ サルヘシ  
當時 金銀ノ 價格ニ 斯ノ 如キ 非常ノ 乱高下ヲ 生  
リ 爰ニ 世上ニ 一問題ヲ 生スルノ 源ト ハナリ  
他ナシ 真言ニ 曰ク 尤ノ 頗フル 久遠ノ 月  
ヤシ 諸仕拂上等ニ 何ニカ 銀ノ 両貸ニ  
益ヤ へキモノヤ 何ト 問

爰ニテ田地ヲ  
物ヲ以テシ穀物ヲ  
リタリ當時「ロ」ク次ノ如キハウ  
ト題スル論文ヲ綴テ以テ右穀物ヲ地代ニ受  
ノ思想ヲ世ニ公示セリサレバ其文ニ曰ク凡ソ  
ノ此部分タル英國ハ申スニ及ハス其他何地ニ論  
諸邦國ノ據テ以テ永世無窮一般ノ食物トナス所ノ小  
來コソ如何ナル久遠ノ年月ニ涉ルトモ物ノ變價ヲ裁  
定スベキ至当ノ標準ナリト  
然ルニ亦「ホルナ」氏ハ地金討論ノ際其演說中ニ曰ク  
麵包用ノ穀コソ凡ソ諸物價ノ高低ヲ裁定スヘキ最上  
ノ本位ナリト  
又「プロフエツソル、ゼボンズ」氏ノ言ニ曰ク女王「エリサ

費

一輩、金

ベス配下ノ執政家ハ其昔日條例ヲ發行シテ以テ凡ソ  
「オックス」フホルド「ケムブリッヂ」エトシ等ノ大學校ヲシ  
テ其所屬ノ土地ヲハ穀物ニテ地代ヲ受取ルノ約ヲ以  
テ貸付セシメタルヲ視レハ實ニ遠見アリシト云ハサ  
ルベカラス何ントナレバ其結果ニ依リテ以テ凡ソ此  
等ノ諸學校ハ遙ニ其富ヲ増シタルハナリ抑モ當時ニ  
於テハ凡ソ貨幣ノ名義ヲ以テ約ヲ締結シタル地代守  
付金等ハ其古價ノ唯一小部分ニスラ過キサル迄  
落シタルハナリト

第四

凡ソ紙幣タル者ハ金銀ノ如キ產出  
理自然ノ事狀ニ由テ  
上ニ百ノ便益ヲ備

シテ其

乎

人カヲ、テ随意ニ伸然  
抑モ金銀ノ産出ハ時  
ノ金銀價ヲシテ大ニ増減セシムル  
年月ヲ要スルモノナリ又金銀ナル者ハ時ノ如ク  
ス其在高ノ多寡ニ論ナク凡ソ各社會ニテ金銀ヨリ  
ントスル時機ニ應シテ之ヲ配當スルノ力運動シテ  
サルナリ斯ノ如クナルニ依リ全世界到ル處皆金銀ノ價  
ヲシテ平等ナラシメ得ルモノトス以上ハ已ニ前文ニモ  
余輩カ開陳セシ所ナリ  
然ルニ不換紙幣ニ至リテハ其發行主ノ願望スル所ニ應  
シ限リナク之ヲ増發センモ亦量リ難キノ憂患アリ凡ソ  
今爰ニ人アリ貳千「オンス」ノ金塊ヲ礦山ヨリ掘出サント  
スレバ實ニ壹千「オンス」ノ金ヲ掘出ス丈ケノ勞役ヲ二倍

方要スルナリ然ルニ今爰ニ貳「ドル」ラルノ手形壹千枚若  
クハ拾「ドル」ラルノ手形壹千枚ヲ印刷セント欲スレバ壹  
「ドル」ラルノ手形壹千枚ヲ印刷スル丈ケノ勞役ヲ要スル  
迄ニシテ壹「ドル」ラルノ手形壹千枚モ貳「ドル」ラルノ手形  
貳千枚モ其勞費ニ至リテハ均シク是レ同一ナリサレバ  
コソ余輩カ業已ニ前文ニモ開陳シタルガ如ク佛國土地  
抵當ノ「アツシグニヤ」紙幣ノ如キハ千七百九十五年ノ五  
月千七百九十六年ノ一月トモニ一ヶ月間ニ二三十  
ラシクノ發行額ニ至リタルニハアラスヤ又不換  
至リテハ後令ニ其發行額ノ超過スル所アルモノ  
分ヲハ商業世界到ル處ニ配分スル  
ナルモノナリサレハ不換紙幣ニ取テ是ニ至要  
ノハ其用高ノ制限



然ルヲ... 発行ス  
リ種々ノ災害ヲ生スル  
スヨリモ却テ遙ニ太  
銀正貨  
通用上ニ弊

第五

凡ソ過度發行ノ危害ハ不換紙幣ヲ脅迫シテ変  
サルナリ蓋シ不換紙幣ハ如何ナル危険ヲモ侵シ過  
發ノ弊害ニ陥リ易キモノナリ不換紙幣ヲ發行セル者  
苟モ謹慎注意ヲ忽ニスベカラス仮令ヒ数年心ヲ用ヒ自  
ツカラ制シ躬ツカラ禁スルコアルモ猶且ツ更ニ人情進  
攻スルカ若クハ政府臨時ノ急務アル等ニテ増發ノ舉ニ  
出テントスルニ際シ能ク之ヲ制禦スルハ難シサレバ凡  
ソ何地ヲ問ハス苟モ不換紙幣ヲ通用セシムルノ民ハ此  
過度増發ノ危害ヲ受シテ遁レ能ハサルモノナリ抑モ不

換紙幣ヤ其物ハ斯ノ如キ有害ノモノナルニ付行政宜シ  
キヲ得ス徒ニ微芻ニ過ルカ將タ不注意ニ流ルカ若シ  
クハ一日商業驚慌ノ変アルカ若シクハ又敵兵進入ノ流  
言ヲ街頭ニ傳フルカ苟モ此等ノ変事アルニ於テハ其國  
ノ貿易殖産ヲシテ一朝深淵ノ下ニ投擲シ地ヲ拂ハシム  
ルノ慘状ニ至ラシムルモ亦測リ難シ

「ハミルトン」氏ハ其銀行報告書中ニ論シテ曰ク抑モ我米  
國大政府ニ於テハ其國憲ニ由リテ以テ各州銘々ニ  
ヲ發行スルコトヲ嚴禁セシハ寔ニ能ク其当ヲ得ル良法  
ナリサレバ其嚴禁ノ精神ハ米國政府之ヲ要  
アラス成程政府ニテ紙幣ヲ發行  
ニ發行スルノ紙幣ニ適  
州ノ發行紙幣ニハ適  
ハカ  
不便

免ル、トモ或ハ之レナキ  
ニテ紙幣ヲ發行スルハ、  
太シキヤ抑モ政府タ  
施行セザルコト以テ策ノ得タル者トナスヲ以テ  
キナリ  
凡ソ紙幣發行ノ舉ヲ大ニ經營シテ止サルハソガ  
有害トナルハ蓋シ數ノ常ナリ抑モ紙片ニ官印ヲ押捺シ  
テ紙幣トナスハ租稅ヲ賦課セルヨリモ遙ニ容易キ事情  
ナルニ依リ凡ソ何邦國ニ論ナク其國ノ政府タル者一回  
紙幣發行ノ舉ヲ實施シタル上ハ意ノ如ク之ヲ發行シテ  
以テ過度増發ノ患害ニ陥ラザルモノハ之レナキ程ナリ  
ト

第六

凡ソ過度増發ノ危害ハ不換使用ヲ通用セシムルノ社會  
ヲ脅迫シテ決シテ止ザル而已ナラス猶且ツ一朝過度増  
發ノ変起ルヤ否ヤ之ヲ超過セント欲スルノ勢ハ倍々激  
カヲ添ルモノナリ抑モ其然ル所以ノ理由ハ昭々乎シ  
テ夫レ明ラカナリ凡ソ金銀貨ニハ所謂需用供給ノ法  
適當セルナリサレバ需用ハ以テ供給ヲ生シ供給ハ以テ  
需用ヲ満足サルナリ然レバコソ何地ニテモ金銀貨ヲ餘  
分ニ攜帶スル中ハ其金銀貨ハ他邦へ流レ去ル者ナ  
ルニ紙幣ハ仮令モ一國ニ超過スルモ他邦ニ流レ去ル能ハ  
サルナリサレバコソ何ノ土地ヲ問ハズ紙幣ヲ比行セハ  
其紙幣ハ依然トシテ其國ニ止マ  
現出スルナリ凡ソ紙幣 一國  
ノ出口一ヶ所モ之レ

然ルカ故ニ苟モ紙幣

待ニ

リ而シテ萬國ノ通商買

由リテ

レバ限リナク騰貴シテ止ザルナリ

ヲ發行シテ一守ノ救策トナシタル政府ハ其發行以後同

モナク其百般ノ日用諸品ヲ増加セザルベカラズ

ノ勞役ノ如キ日用諸物品ノ如キハ發行以前ヨリモ

ヲ投シテ以テ購求セザルベカラス物狀斯ノ如キニ至

テ忽チ爰ニ機ニ乘シテ投機ノ弊害起リ人生日用ノ諸物

品ヲ買占ムル等ノ舉生シ諸物價ハ愈倍速ニ騰貴スルモ

ノトス

佛國大統領「ホワイト氏ハ佛國革命「アツシグニヤ」紙幣第

二回ノ發行ニ就テ其所見ヲ開陳セリ其文ニ曰ク紙幣發

行ノ舉ニ於テモ寔ニ窮理學上ニ於テ夫レニ類似セル法

ノ運動スルガ如シ今試ニ一天造物ヲ高处ヨリ落スルハ

重力ノ理ニ合ヒ其物ハ所謂物理ノ法ニ由リテ以テ下

近ツクニ随テ其速力蓋シ加ハリ進ムモノナリサレハ不

換紙幣ノ發行ニ於テモ矢張り亦立法官ノ理論利害ノ如

何ニ應シ將亦人民一般ノ利害如何ニ由リテ以テ速ニ之

ヲ増發シ随テ其下落ヲ進一進ヤシムル自然ノ天法アル

ナリト云々抑モ當時凡ソ佛國人ハ殆ント皆望ヲ失シ所

謂萬物皆人ヲ益スルト言フノ説ヲ信シテ以テ紙幣

發ハ以テ國ノ繁榮トナルヲ主唱ヤリ爰ニ於テカ

地到ル處皆一苟愉快ヲ心中ニ覺フニ至レリ實

ク紙幣ニ沈醉セリ然ハニ其愉快

飲ミタル後ノ愉快ニス

沈醉スルノ度神速ナレ

好酒



メ変シ、夫ヨリ超進

ハ政需ノ所要ニ應ス

遙ニ足

信スル、餘リアル、

吾由昭々トイハレ

「エドモンド、ボグ氏ノ言ニ曰ク凡ソ何レノ邦

タリ凡金銀貨ハ只徒ニ在リ餘ル程ニ増加スルモ、非

ス其然ル所以ノモノハ他ナシ其増加スル時ハソハ

貿易増加ノ前兆ナレバナリ随テ亦事々物々皆安全鞏固

タルノ前兆ナレハナリ然ルニ紙幣ニ至リテハ毫モ貿易

ハ増加セザルニ増發ノ舉アリ亦猶ホ貿易ハ却テ大ニ減

少セルニ紙幣而已増加スルヲ等ナキニシモ、抑モ

其斯ノ如クナル所以ノモノハ他ナシ凡ソ紙幣ハ其國貿

易ノ標準ニハアテスシテ只其政府ノ急務ニ應スルモノ

タルニ過キサレバナリ凡ソ紙幣ハ知ラス識ラス自然ニ

國家ノ殷富ヲ汲尽スルノ舉ニアリナカラ通貨ヲ製出ス

ルハ只此舉ニ限ル而已トナスカ如キハ寔ニ虚妄ノ極ニ

シテ到底破産倒滅ノ基ヲササルベカラスト

「プロフエツソル、ペリイ氏ハ其著「エレメンツ、オウ、ホリチ

カル、エコノミ」ト題セル書中ニ曰ク凡ソ今日迄ニ不換

紙幣ヲ發行シタル政府ハ数多アリト雖モ其中ニテ才智

ト勇氣トヲ奮フテ以テ過度増發ノ剛念ヲ久シキニ制治

シタル政府ハ未タ一ヶ所モ乏レアルヲ視サリシナ

云々

凡ソ紙幣印刷機械ヲ一回据置ク中、其機械、山上モ

ナク神速ニ運轉セザルベカラス可クナリハ、

下落スニ随テ巨額ノ、

第七

凡ソ不換紙幣ノ超過ス小ノ  
ノ貿易上ニ殖産上ニ波及スル所ニ  
トト考察スベカラス如何ナル商業社會  
社會ノ正債ハ貿易上ニ妨碍ヲ招キ隨人心ニ怖ノ念  
ヲ生スルニ非サレバ其社會ヲ去リテ以テ萬國貿易ノ過  
不及ヲ變算スルノ本分ヲ去ラザルナリ尤モ近世ノ四  
ノ如キハ其組織發達ニ運動極リナキヲ以テ貿易ヲシテ  
斯ル妨碍ニ罹ラシメ人心ヲシテ斯ル恐怖ノ念ヲ懷カシ  
ムルヲ勿ルヘシト虽モ已ニ斯ル災害ニ罹リタル社會ニ  
シテ又巨額ノ償金等ヲ一時ニ辨償スル時ニハ其急ヲ視  
ルヲアルヘシ  
「ウエグストル氏ハ千八百十五年ノ銀行議案ヲ是非セシ  
其演說中ニ論シテ曰ク凡ソ商業社會ノ通用貨タルモノ

ハ自他ノ商業社會ニテモ亦採テ以テ其貨幣トナス所ノ  
モノヲラザルベカラス又其通用貨タルモノハ毫モ損失ヲ  
招クヲナク自他商業國ノ通用貨ト交換シ得ヘキモノナ  
ラザルベカラス且又其通用貨タルモノハ同社會内邦國  
ノ各個人ノ間ニアリテ授受ノ際自在ニ通用スル而シテ  
ラス猶且ツ甲國ト乙國トノ貿易ノ差ヲモ精算決了スル  
ニ足ルモノナラサルヘカラスト  
抑モ佛國銀行ハ如何ノ良手段ヲ施シテ以テ千八百九十  
一年以來其發行紙幣ヲ金貨ト交換スルニ際シ大ニ割  
引ヲ其紙幣ニ索スヲ防キ得タルカハ余輩カ已ニ前文ニ  
開陳セシ所ナリバジニ氏モ亦  
リトト題セル書中ニ論シテ曰ク  
ニ日常ノ取引等ヲ紊乱スルニ足

ナリ夫リ然リ然リト虽、凡ソ紙幣  
ナリト虽、苟モ下落スル、アレバ、  
紊乱ヤシムルニ足ル、カアルモノナリ、若シ、  
落シタルニアテス、只々下落シ易キノ一事スラ、以テ為換  
取引ヲ紊乱ヤシムルニ充分ノ勢力アルモノトスルソ、為  
換取引ノ事ハ其算精細至ラサルナク、一分一厘ヲ争フモ  
ノナルニ由リ、十数ノ変動ノ如キハ、蓋シ商業ノ安危命運  
ニ拘リ、随テ利得ヲ化シテ、忽々損失ニ轉變セシムルモ亦  
量ルベカラザルモノトスサレバ、コソ英京倫敦ハ、歐  
アリテ、獨リ為換取引ヲ精算結了スルノ一大場所、ナリ  
テ、以テ従前ノ如ク、二者ノ一トナラザリシ所以ナリ  
第八  
凡ソ不換紙幣ヲ發行スルニ程度ヲ超過スルコト太シクソ

ガ為メ、随テ其紙幣下落シ、浮沈常ナキ、井ハ殖産ニ社會ニ  
最大無比ノ災害ヲ波及セシムルバ、アラス抑モ下落紙幣ヤ  
其物ハ常ニ浮沈貨幣ナリ、其然ル所以ノモノハ、則チ左ノ  
二理由アルニ因テナリ、其一、凡ソ如何ナル土地、邦國ニ限  
テス、其社會ニ於テ、貨幣ヲ需求スルノ度ハ、恒ニ變動シテ  
止マズ、増減常ナキモノナリ、請フ者ヨ、凡ソ正貨若クハ、交  
換紙幣ノ通用セル邦國ハ、地金ノ流入シ、又此等ノ邦國ヨ  
リ、地金ノ流出スル、殆ト間断ナキニアラスヤ、然ラハ、則チ  
貨幣ノ需求ニ増減常ナキハ、亦知ルベキ而已  
夫レ貨幣ノ數量ハ、決シテ中間ニ位スルモノニ、アラス、其  
終始運動シテ止マザル、尚ホ海、今、得ルカ、如  
リ、抑モ貨幣ノ價格容易ニ動カス、一、是レ、ハ、是レ  
此運動ノ自在ナルニ由、然ルニ、換紙幣ニ至リテ

ハ已ニ余輩カ前文ニモ陳シノルカ如ク外國貿易ニ由  
リテ國內ヲ去テ以テ外邦ニ流出スルノ路臺モ之レナシ  
然レバコソ其價格ノ變動スルハ且レ不換紙幣萬圓ク  
ヘカラザル所ナリ以上第一ノ理由ニ係ル其二ルソ紙幣  
下落スル所ハ其紙幣ノ流通ヲ害スル所ノ妨碍ヲ生スル  
モノトス是レ即チ已ニ本書第二百七十九「ペイデ」ニ於テ  
縷々開陳シタル所ノ如シ尤モ紙幣ノ下落ヨリシテ其流  
通ヲ害スルノ度ハ戦乱ノ結果同盟ノ模様撰擧ノ結果等  
凡ソ公衆ノ流傳風説如何ニ由リテ其害スル所太タ寡  
アルモノトス抑モ以上ノ如キ諸原因ノ作為如何、已ニ  
本書第三百七十四「ペイデ」ニ登録セシ合衆國合法紙幣千  
八百六十二年ヨリ六年ニ至ル迄下落セシ一表ヲ以テ一  
目瞭然タリ佛人「ゴール」セル、セノイル氏其著述「オペラシ

ヨン、ドバンク」ト題セル書中第三百七十二「ペイデ」ニ論シ  
テ曰ク佛國革命紙幣ノ市價ハ其政畧上ノ變動ニ由リテ  
浮沈ヲ被リタルノ太シキハ尚ホ其増發ニ由リテ影響ヲ  
受ケタルト殆ト彷彿タリシト第二ノ理由即チ以上ノ如  
シ  
抑モ不換紙幣ハ正貨ニ比スレハ夫レ斯ノ如ク俄然下落  
シ其諸品物ヲ購買スベキ力量浮沈シテ止サルカ故ニ突  
ニ諸物産ニ賦課スルノ重税トナルモノナリ夫レ紙幣ハ  
消靡者ノ費用ヲ以テ一時莫大ノ利得ヲ貿易上ニ付与ス  
ルヲアルトモハ只為換相場ヲ投機ノ極ニ至ラシメ諸  
般ノ正徳ヲ不利ノ太シキニ墜ラシメ又貿易取引上ニ害  
悪ノ習慣ヲ普及シ随テ結局其莫大ノ利得ヲ諸商店其  
他投機社會中ニ配分シ一時利ヲシムル而已然ルニ



浮沈紙幣ノ其災害ヲ影響スルハ日稼キノ職工社會ノ活  
路ニ於テスルモノヲ以テ最モ太シトス  
ウエブストル氏ノ言ニ曰ク凡ソ人間社會中ニテ正當確  
實ノ貨幣ノ為メニ最モ利益ヲ占メ貨幣ノ政ニ於テ徒ニ  
暴制害令ノ出ルカ為メニ最モ苦境ニ腦ム其者ハ日々勞  
力苦辛シ所謂玉ノ汗ヲ流シテ漸ク其日一日ノ食料ヲ儲  
ケ得ル者は是レナリ

夫レ紙幣ノ下落スルナリ物價ノ俄然變動スルナリ紙幣  
ノ相場朝ニ午ニ下落シ又午ニ夜ニ尚ホ一層減落スルナ  
リ凡ソ斯ノ如キノ物状ハ夫レコソ投機者ノ秋獲時ヲ組  
成シ併ヤテ亦狡猾詭計至ラサルナキ徒手社會ノ秋獲時  
ヲモ組成スルモノナリト云々凡ソ斯ノ如ク貨幣ノ政錯  
雜混動極リナキノ日ニ於テハ投機者流ハ其機ニ乘シテ

非常ノ利益ヲ一時ニ僥倖スルニ獨リ職工ハ何ヲカ蓄積  
シ得ベキゾヤ其職工ハ食ヲ求ムベキノ人ナク却テ公衆  
ノ餌食トナリテ止ニ而已豈憫然ナラスヤ

同氏亦曰ク錯雜混動極リナキノ貨幣ハ政界上ノ弊害中  
最モ太シキモノナリ抑モ紙幣ヤ其物ハ社會交際ノ制ヲ  
維持保守スルニ必要クベカラサルノ徳義ヲハ顛覆セ  
シメ暴意害心ヲ獎勵シテ以テ社會ノ康福ヲ損傷セシム  
ルモノナリト

時方サニ千八百十年十月二十五日佛帝「ポレオン」治  
世ノ世當時ハ内務卿「モンタリブ」氏ハ一書ヲ地方長官  
ニ寄送セリ其文ニ曰ク帝考ラ紙幣ノ國家ニ於ケル  
最モ恐怖スベキノ疾病ニ均シ縱令其物タルヤ人間ノ  
外部ヲ苦シメサルモ社會一般ニ慘毒ヲ流スノ實ニ至

テハ毫モ彼疾病ニ異ナルナシト  
同氏亦曰ク夫レ紙幣ヤ其物ハ殖産ニ勤儉ニ経済ニ相反  
シ相抗スルモノナリ而シテ其物奢修放逸ノ害心ヲ鼓  
舞シ併セテ投機ノ念ヲ逞フセシムルノ兇器ナリサレバ  
凡ソ職工社會ヲ欺騙ニ陥ラシムル凡百ノ奸策中ニテ未  
タ曾テ紙幣ヲ以テ之ヲ迷惑セシムルヨリ其結果ノ太シ  
キモノハ之レアラサルナリ知ラスヤ紙幣ハ貧者ノ膏血  
ヲ絞リテ以テ富者ノ野ヲ潤スノ發明中最モ其著ルシキ  
モノタルヲ  
夫レ世ノ常ニ虐政ナリ壓制ナリ苛税重斂ナリ凡ソ此等  
ハ社會ノ康福ヲ害スルノ太シキモノタリト虽氏之ヲ彼  
ノ詭詐紙幣ニ比較シ下落紙幣ノ事トセル強奪ニ照シ来  
レバ其害ヤ亦輕小ナリト

爰ニ浮沈紙幣ヲ使用セルニ由リテ職工社會ノ嘗ムル特  
起ノ不利益アリ是レ此事ニ付テハ拙著「ウエゲス、クエツ  
シヨント題セル書中ニ申陳シタル解説ヲ爰ニ今寫出シ  
テ其不利益ノ所以ヲ説カンニ仮令職工タル者ハ其傭主  
并ニ其同職ノ者ト競争シテ止マサルモ利益其職工ニ来  
ラザルベシ然ルニ職工タル者ハ心ヲス利益ヲ得ルニ汲  
々タラザルヘカラス而シテ其之レヲ得ント欲セハ職工  
タル者ハ其利益ヲ一步モ他ニ讓ラス之ヲ他人ト併得シ  
之レカ算ヲ綿密正確ニヤスンバアルヘカラス然リト虽  
氏如何ヤン流通セルモノ惡貨幣ナル片ニハ職工ハ其傭  
主ニ給銀ヲ需メントタルニ際ニ高低如何ヲ精細ニ知ル  
ニ由ルキヲ以テ諸物價ニ從ヒ曖昧シテ之ニカ需ヲナサ  
ザルベカラス只此際ニ當リ據テ以テ需求ノ根本トナス

バキハ其職工目今ノ收入不充分ナリトノ感想是レアル  
而已レバ物状斯ノ如キ日ニ於テハ職工タル者其給銀  
ノ高低如何ヲ精細ニ知ラスシテ服役スルガ故ニ其職工  
ノ利益ハ幾分犠牲ニ供セラル、所アルハ勿論ノ事ナ  
リ  
凡ソ彼政治上ノ習慣ナルモノ以テ強ヲ凌キ弱ヲ助ケ政  
治上ノ最大要具トナリ大ニ務メテ益アル所ノモノヲ以  
テ「ミル氏」カ亦經濟上ノ習慣ニモ此益務アリトセシハ抑  
モ職工社會ハ其貧窶無智惰性ノ然ラシムル所ニ依リテ  
物状ノ俄ニ過激ノ變動ヲナスコアル片ハ其レニ應スル  
能ハザルヲ察シテナリ夫レ風俗習慣ハ實ニ一條ノ城柵  
トナリテ以テ反令ニ市場ノ變動アルモ幾分經濟上ノ  
短所ヲ保護スルモノナリ然ルニ浮沈常ナキノ紙幣ハ此

城柵ヲ破リテ以テ上下貧富ノ全社會ヲシテ猛烈間断ナ  
キ争場ニ陥ラシムルモノトス爰ニ於テカ其社會ノ中ニ  
テ最モ貧弱ナル者ハ益々窮シテ輕視蔑如セラル、ト論  
ヲ俟タス

然ルニ凡ソ職工ノ不利ヲ被ムルハ豈啻其傭主トノ競争  
上ニ而已止マラス其他亦不利ニ罹ルヲ鮮少ナラス請フ  
今之ヲ迷ベン夫レ職工ヤ其日々ニ得ル所ノ給銀ヲ以テ  
其生々百般ノ諸費ニ應スル丈ノ分ヲ得ルヲアタハサル  
片ニハ小賣高ト競争シ以テ其一身ヲ保採スルハ職工ニ  
取リテ太ク難キハ論ヲ俟タサルナリ

抑モ職工ヤ其得ル所ハ凡百ノ小買物ニ之ヲ費用スルモ  
ノトス事状已ニ斯クノ如シ然ルニ其得ル所ハ下落紙幣  
ナルニ其購買スル品物ノ相場沸騰セルニ於テハ抑モ職

工ハ壹磅ニ付志「ブツ」シエルニ付志「ヤルド」ニ付其代價ヲ  
拂フニ幾許ヲ以テセハ果シテ過不及ナキヤ如何シテ  
カ能ク算定シ得ベキヤ夫レ職工ヤ品物ヲ購買スルト  
ハ云ナカラ其買求スル品物ヲ生産スルノ状況等ニ付テ  
ハ毫モ其詳細ヲ知ラス而シテ紙幣下落ノ為メニ物價俄  
ニ騰貴セシヲ以テ最早祖先ヨリ言傳來リタル従前ノ物  
價ニ準シテ相場ヲ推知スルニ由ナキナリ  
夫レ最前未タ下落紙幣ノナキ昔日ニアリテハ若シ日用  
消費ノ品物ノ相場騰貴セシ時ニハ職工ハ物價ノ騰貴ニ  
抗抵スヘキ心情ヲ懷キ高價ニ付テ彼是苦情ヲ唱ヘ大ニ  
之ニ抗抵スルノ色アリタリサレハコソ職工ハ通例ノ相  
場ヲ引キ固執シテ動カス暫ラク其品物ノ買入レヲ見合  
ヤテ以テ其供給ヲ他ニ仰キタリ凡ソ一社會ノ状況實ニ

斯ノ如キ日ニ於テハ諸物價トモニ驚愕ニ堪ヘサル程ニ  
ハ騰貴ヤサルヘシ又仮令諸物價騰貴スレハトテモ實ニ  
真源正理アルニアラザルヨリハ更ニ騰貴ヲ起ス「刀ル  
ベシ」而シテ實ニ真源正理アリテ騰貴シタルニセヨ其新  
相場ハ左迄不條理ノ大騰貴ヲセシテ事實止ムヲ得ザ  
ル丈ケニ止マルベシ  
夫レ下落紙幣ナキノ日ニ於テハ實ニ以上ニ迷フルカコ  
キ状況ナリト虽モ苟モ下落紙幣ノ通用セル日ニ於テハ  
小買人タル者通例ノ相場ニアラサレハ買ハスト云フノ  
心情モ爰ニ破レ職工ハ實ニ其算用如何ヲ失脚スルモノ  
ナリ凡ソ諸物價騰貴スルニ當リテハ職工ハ其騰貴何レ  
ノ邊ニ底止スルヤヲ豫察裁定シ能ハサルモリ爰ニ於テ  
カ職工ハ騰貴ノ底止如何ヲ論シ哀訴シテ止マサルニ拘

ラス物價ハ益々騰貴ノ勢ヲ逞ツスルニ付職工ヨシテ爰ニ寒心冷膽セシムル而已物状爰ニ至リ職工ハ勢如何トモスルヲ得ス毫モ諍鬭スル所ナク商店ノ要スル所ニ從ヒ唯々諾々其代價ヲ拂フ而已夫レ斯ノ如キノ時ニ於テハ莫大ノ利得ヲ占メ随テ最大ノ虐奪ヲ事トセル者ハ小賣商即チ是レナリ

以上ヲ以テ概テ要件ヲ論了セリ然ルニ爰ニ尚ホ一事論及スヘキモノアリ他ナシ凡ソ不換紙幣ヲ通用セル邦國ニ於テハ其金貨ノ打歩ヲ以テ紙幣ノ下落ヲ量リナスヤ否ノ一問題是レナリ蓋シ此一問題ハ凡ソ債幣ノ理論中最大至難ノ一事件ナリトス

ガロフエツソル、プライイス氏ノ言ニ曰ク凡ソ不換紙幣ノ下落ヲ左右スル法令ニ付テハ余曖昧トシテ其事理如何

ヲ辨明セスト

今暫ラクリカルド氏カ所謂金銀貨配分ノ法ニ説ヲ同フシテ視レハ抑モ金貨ノ打歩ハ紙幣ノ下落ヲ量ルニ伊ラスシテ他ニ何ヲカナスコアルヤヲ知ルハ太々至難ナリ是レ其至難ノ第一トス又英國ニ於テハ千八百十九年ヨリ二十一年マテ合衆國ニ於テハ千八百六十五年ヨリ八年マテニ適用施行セシカ如キ主義ヲハ事實ニ反對シシカラ者ト同意スルハ殆ト致シ難キニ似タリ是レ其至難ノ第二トス凡ソ諸物價等其取調ノ出来タル分ノ諸統計表ニ由レハ以上ノ年月ニ當リ諸物品ヲ購買シ得ベキ紙幣ノ力ハ却テ其金貨ヲ購買シ得ベキ力ヨリモ太々遙ニ減落セシヲ証明スルニ足レリ

千八百二十三年ヨリ千八百三十二年マテ英國ニ於テ騰

貴主義ノ「ボルミンゲハム」黨ノ先導「マシアス、アットウ」  
ド氏ニ其事ニ付テ其説ヲ吐露ヤリ其文即左ノ如シ  
凡ソ紙幣ヲ而已專ハテ流通セルヨリシテ物價ニ騰貴ヲ  
生スル時ハ大ニ地金ヲ需用スルコトハ立刻ニ停止スルモ  
ノトス即チ地金ヲ流通貨ニ供スルノ需求ハ地ヲ拂テ去  
ルモノトナス凡ソ物状斯ノ如キ日ニ於テハ其前キニ首  
トシテ地金ノ需求ヲ創生セシ地ヨリシテ之ヲ地金市  
ニ供給スルモノトス果シテ然テハ則チ矢張り又專ニ金  
銀貨本位ヲ再行シ紙幣ヲ廢棄セル日ニ於テハ更ニ金貨  
ノ需求俄ニ相生スルモノトナス蓋シ其時ニハ紙幣ヲ一  
般ニ需求スル高減縮スルニ依リテ諸物品ノ需求モ又隨  
チ減縮スルモノトス然ルヲ以テ凡ソ金地金ハ凡百ノ物  
品中ニテ紙幣ノ下落ノ為メニ諸物價一般ニ騰貴スル内

最後最少ノ騰貴ヲナスモノナリ又紙幣ノ下落曰ニ復シ  
タルカ為メニ諸物價一般ニ下落スル内最後最少ノ下落  
ヲナスモノナリト  
以上「マシアス、アットウ」ド氏ノ所論中其前段ハ真ニ然  
リサレバ以テ凡ソ正金拂ノ停止又ハ再行ノ舉ゴニ伴随  
シ僅々兩三ヶ月ノ間ニ金債ハ一時他ノ諸品ト其方向ヲ  
異ニスル所以ヲ解説スルニ足レリ夫レ然リ然リト雖モ  
已ニ一定ノ原理アル有レハ金債ト雖モ諸物價一般ノ昇  
降ニ於テ又自他ノ諸物價ニ伴随ヤサルコト數年ノ久シキ  
ニ涉ルヲ得ヘキヤヲ明知スルハ太々難シ余輩ハ金債ノ  
騰貴スルヤ最後ニアリト云フニ至テハ萬々同意ナリト  
雖モ其騰貴ハ數年ノ久シキニ涉ルモ尚ホ最少ニ止マル  
ノ所以ヲ知ラサルナリ

凡ソ貿易通常ノ運動ニ由リ時臻リ機熟シテ以テ更ニ再  
整ノ状ヲ呈スル以上ハ金貨其物ハ下落紙幣ノ通用セル  
邦國ニアリテ其相当ノ價格ヨリモ下位ニ止マルコアラ  
ハ抑モ何故ニ其購買力ノ遙ニ大ナル海外ニ流出セザル  
ベキゾヤ爰ニ一原因ノ在ルアリテ以テ凡ソ不換紙幣ノ  
通用セル邦國ニ於テハ金貨其物ノ價格ヲハ幾分歛自他  
ノ諸物價ト共ニ騰貴セシメサル所以ノモノアルハ余輩  
之ヲ知ル夫レ初メテ金貨ニ需求ヲ來セシムル諸商業  
國ニ於テ之ヲ使用スルノ時機至リテ而シテ後其需用ヲ  
生セシモノナリ但シ目下已ニ金貨ヲ不用視シ之ヲ投擲  
シタル邦國ノ如キモ皆其初メ之ヲ使用スルノ時機至リ  
シ頃ニハ共ニ之ヲ需用セシモノナリサレバ其國ニテ之  
ヲ使用スルコトヲ止ムルハ金貨需求ノ総額ハ其レ大減

少スベキ理ナリ爰ニ於テカ徐々消費ノ高漸進スルニ由  
リテ其供給減少スル迄ハ各國ノ金價亦随テ下落セスニ  
ハアルベカラス夫レ然リ然ルト雖此原因ハ仮令極度  
ニ達スルモ金貨ヲハ自他ノ諸物價ト共ニ騰貴セシメザ  
ル影響ノ一小部分トナルニ足ルマデトナルベシ  
ゼイ、エス、ロープ氏モ亦「アメリカン、ソシアル、サエアンズ、  
アッソシエーション」ニテ刊行セシ論文第五卷ニ「マシアス  
アットウード」氏ノ所見ト彷彿タル論ヲ吐露セリ其文即チ  
左ノ如シ

今ヤ已ニ金貨ハ当米國社會ニ於テ金貨ノ金貨タル本  
職ヲ實際ニ剝奪セラレタルノ色アリサレハゴッセル百  
物品ノ如ク同様ノ事情ニ由リテ以テ今ヤ金貨ノ交換  
價ハ太々相減落セリ

今余輩ハ爰ニ近ク例ヲ引キ以テ我政府ハ凡ソ其製法  
ハ如何ナルモノタルニセヨ一切ノ小麥ヲ食料ニ供用  
スルコトヲ嚴禁スルノ法令ヲ布キ嚴ニ之レヲ実行シ得  
且ツ其舉ヲ好ミタルコト假想スヘシ夫レ物狀斯ノ如  
キ場合ニ於テハ抑モ何人ゾ麩粉ノ相場ハ太シク減落  
スベキヲ疑フモノイランヤ又何人ゾ其麩粉ハ仮令如  
何ナル交換價ノモノニモセヨ其相場ハ只々外邦諸國  
需求ノ厚薄如何ニ首トシテ是レ屬スルヲ疑フモノイ  
ランヤト

以上「ゼイ、エス、ロープ」氏ノ論スル所ハ實ニ正確ナリ而シ  
テ其論ハ余輩カ今討問調査スル所ノ金價高低ノ所以ヲ  
解説スルニ足ルモノナリ今暫ク「ロープ」氏ノ例ヲ假リテ  
説クニ若シ政府ニテ小麥ヲ合衆國內ノ食料ニ供用スル

コトヲ嚴禁シタランニハ麩粉ノ相場一時大ニ米國ニ減落  
ヌルハ論ヲ竣タス而シテ小麥在高ナルモノ好市場ニ輸  
送シ去ラル、カ又ハ空シク貯蔵シテ以テ漸次ニ廢滅ニ  
付セラル、迄ハ其減落ハ依然トシテ止マザルベシ夫レ  
實ニ然リ然リト雖且爾來亦海外ノ相場ト相当セサルモ  
運送費ヲモ見込ミ抑モ何故ニコソ小麥ヲ産出シテ止マ  
サルベキ乎

金貨モ亦然リ抑モ千八百六十二年合衆國ニテ其金貨ヲ  
商業上一般ノ通用貨トシテ使用スルコトヲ全廢シ僅ニ特  
別ノ用途(即チ大藏省ノ諸收支海關稅ノ收入其外公債利  
子ノ支出等)而已之ヲ使用セシカ故ニ痛ク金貨ノ購買  
カヲ當米國ニ低減セシメ以テ其金貨在高ノ一部ハヲハ  
宜シク海外ニ流出シ去ラシメタルコトアリタリ



之レカ為メ且亦全世界到ル所ヲシテ金貨ノ購買力ヲ久  
遠ニ低減セシムルニ至レリ即チ今衆國ニ於テ其  
需用スルコト爰ニ停止セシニ由リ金貨一般ノ需求モ亦隨  
テ減セシカ故ナリ抑モ千八百六十二年合衆國政府ノ此  
一舉ハ何故ニ千八百六十五年又ハ千八百七十三年ニ至  
リテホストン又ハ新約克金貨ノ購買力ヲモ減落スル乎  
凡ソ下落紙幣ノ既ニ通用セル邦國ニ於テハ金貨ノ打歩  
如何ニ由リテ算定スベカラザルノ影響ノ諸物價ニ波及  
スルヤ必セリ抑モ金貨打歩ハ諸物價ノ騰貴ヲ量ルモノ  
ニアラザルトノ一ハ苟モ經濟主義ヲ熟知セル達觀者流  
ノ輿論ニシテ而モ其確信スル所ナリ實ニ此旨趣ニ付テ  
ハ尚ホ曖昧タルヲ免レサルコトハプロフエツソル、プライ  
ス氏ト萬々同意スル所ナカラ余輩カ只僅ニ爰ニ陳白シ

得ルモノハ第一ニ凡ソ金銀貨トモ其需用供給動乱ノ後  
萬國再整ニ至ル迄ノ時日ハ社會一般ノ信スル所ノモノ  
ヨリモ遙ニ長久ニ渉ルベシ何トナレバ貿易ノ摩擦小情  
カトハ延テ其再整ヲ久シキニ及ボシ且ツ金銀兩貨ノ其  
通用地方ノ價格ニ付スルニ所謂二三ノ經濟學士カ其價  
格ニ付スル一定不動ノ程度ヲ以テスルニ由リテ是レ其  
一ナリ其第二ハ凡ソ余輩カ今此般ノ調査ヲナスニ臨ミ  
引用セル諸物價統計表ノ如キハ凡ソ貨幣ヲ用ヒテ交易  
シ得ベキ諸物品類一切ノ統計表ニアラス且ツ此比較用  
ノ為ニ取リタル諸品物ノ相場ハ紙幣ニ於テハ金貨ノ相  
場ヨリモ遙ニ騰貴シタルニ其他ノ諸物品ノ如キ爰ニ  
入スルノ容易ナラザルモノニ至リテハ左マテ太  
貴ヲ致サバリシニ由リ却テ金價ニ近キ諸物價ノ平均相

場ヲ立テ易キヲ是レナリ

第十七編畢

